

内部ホタルの里を育てる会



活動紹介

■活動場所

内部地区には、波木・北小松・南小松・采女中部・采女が丘の5ヶ所にホタルが生息し、「ホタルを守る会」が組織されています。

■活動日、活動頻度等

ホタルに関する活動は、ホタルの生活史に合わせた年間事業計画を組んで進めています。

■活動内容

- ①4～6月ゲンジボタルの幼虫上陸から蛹化・羽化の生態調査の実施。
- ②同時期に内部・内部東小学校へホタルのパネル展示とホタル教室の実施。
- ③各地区ホタルの会によるホタル観察会の実施(5ヶ所)。今年から東小学校トンボ池も加わる。
- ④各地区にてホタル飛翔調査と水質調査の実施。
- ⑤各地区のホタルを守り・育成していくための独自課題の取り組み。
- ⑥①～⑤までの一年間の取り組みを、8月から各地区でまとめを行い、11月の秋のホタルの報告会で発表する。但し、今年度も新型コロナウイルスの感染拡大により中止とする。
(資料は例年どおり作成・配布)
- ⑦内部地区では采女が丘と北小松の2カ所で太陽光発電所の建設計画が進められている。采女が丘ではいち早く発電所の設置・稼働が進められ、ホタルの生息地は全滅してしまった。北小松は令和3年度に建設計画が発表されたが、その計画は北側のホタル生息地を巻き込んだ計画である。令和3年7月にホタルの会と業者との話し合いの場がもたれ、「ゲンジボタルの生息地を残す」と言う両者の基本合意のもとに、今後進められてゆく。令和4年度は内部地区の自然とホタルを守る厳しい年となろう。
- ⑧内部東小学校の「ホタル池作り」について、一年間は土木作業に明け暮れ、何とか池を完成させる。そして、令和3年3月にゲンジボタルの終齢幼虫55匹を放流し、①幼虫上陸 ②蛹化 ③成虫羽化 ④交尾 ⑤産卵行動を確認する。更に7月には、今年生まれた一令幼虫約800匹を放流する。このようにホタルの人工飼育を試みると共に、ホタル池周辺の湿地帯にて新しくヘイケボタルが沢山生息していることを発見する。新しい内部地区のホタル生息地が誕生しそうだ。
- ⑨環境未来館との共催にて「親子たんぼ体験」の実施。

代表者の想い

内部地区は、周辺は山林に囲まれ、街の真中を内部川が流れ、川の南北には水田が広がっている。内部の河川や水田の用水路には多様な生き物が育み、ホタルが沢山飛びかっている。ところが現在の内部地区では、太陽光発電所なる里山開発がすすめられ、自然・環境破壊が進められている。ホタルについては絶滅の危機にさらされていると言えよう。令和4年度も厳しい年となるであろうが、何とか内部地区の自然・環境を守りホタルが飛び交う街として、子供たちや住民に残して行きたい。

〈トンボ池にヤゴを放流〉



〈4年生のトンボ（ヤゴ）教室〉

